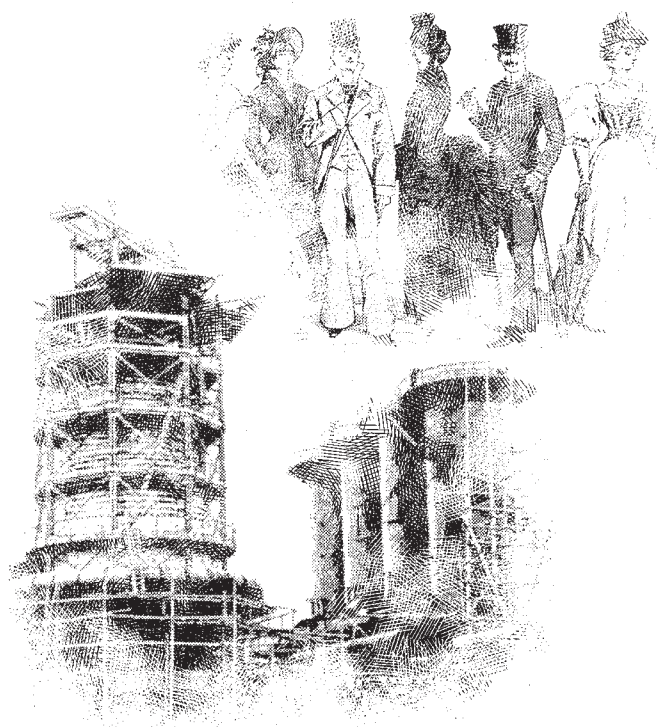


第3章

洋服、鉄への憧れ



岩井商店の
岩井勝次郎は
外国商館を通さない
取引を続けていた

海外の商社と
直接貿易を開始

岩井さん
海外と直接なんて……
我々を通してもらえれば
あなたが直接買うのと
同じ値段で販売します

No

我々は日本人の
ために働いている

人の足元を見て暴利を
むさぼるあなたたち
とは商売することは
できない

そのなかで

明治二九（一八九六）年
鉄鋼製品の輸入を
開始したのを皮切りに
英国のダフ商会から
USステイールの薄鉄板、
軟鋼板、軟鋼棒、帯鉄を
ハンブルグの
ホイエル商会から
針金等を輸入する

岩井商店は
最初の鉄鋼商社
と呼ばれた

いつか
自分の会社で
作って
みたいものだ

しかし
鉄は日本には
まだ無理か……
時期を待とう

そして
明治三三（一九〇〇）年
岩井勝次郎は
初めて外遊に出る

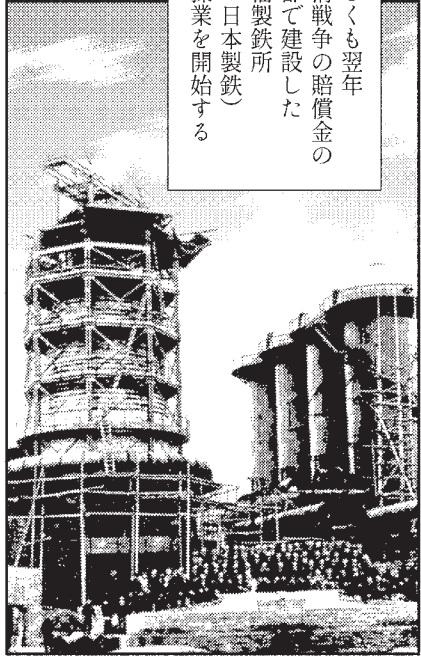
パリ万博の
見物かねて
欧米諸国をまわり
貿易業者の目で
産業経済界の
実態を確認した

この外遊
無駄にはならん

外遊の記録は
「店主洋行緊要誌」
としてまとめられた

西洋人はみな
洒落た装いだ……
そして何より
鉄の需要が大量に
ある

奇しくも翌年
日清戦争の賠償金の
一部で建設した
八幡製鉄所
(現・日本製鉄)
が操業を開始する



日本もいよいよ
「鉄の時代」の
幕開けや

ふん
しょせん官営や
民がやらねば

岩井商店
鈴木商店とも
八幡製鉄の
指定問屋となる

のちに鉄に強い商社
カネヘン商社と
いわれる由縁である

その頃
岩井商店の
輸入毛糸のシェアは
9割を誇っていた

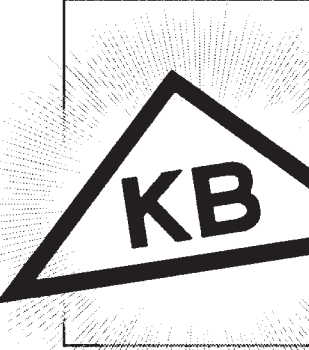
鉄をつくりたいが
投資金額の桁が違う
さすがにリスクが大きい
まず輸入毛糸から
莫大小(メリヤス)製品
をつくらう
ヨーロッパでは
ニットというらしい

皆が喜ぶ
高級なものをな
肌着、スボン……
日露戦争に
勝った日本には
西洋なみの
身だしなみが
必要だ

明治四〇(一九〇七)年
東京の大崎にあった
白金莫大小製造所
(現・トリア紡
コーポレーション)の
経営に参画する



よし
義父の岩井文助のB
その泰公先の加賀屋のK
Bブランドとしよう





岩井の商品は高級品として評価が高くヨーロッパの製品よりもよいと評判ですよ

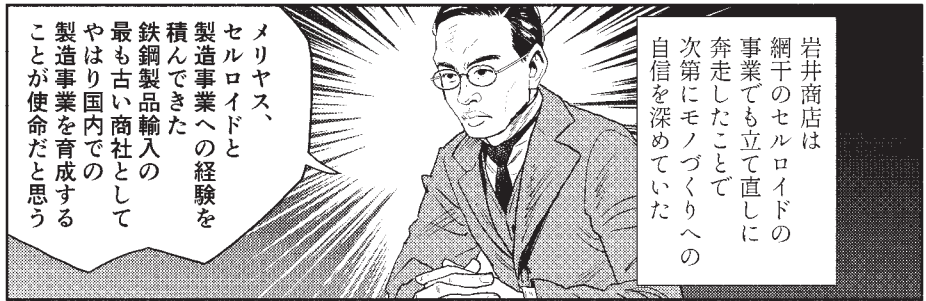
職人さんと心を合わせてよいものを作っているからモノづくりの基本だ

その品質のよさは大正天皇にも認められるほどであった

天皇陛下に乗馬用ズボンを献上することが決まった

なんと光栄なことか!

岩井商店はニット界の草分けとして知られ販売量を大きく伸ばしていった



岩井商店は網干のセルロイドの事業でも立て直しに奔走したこと、次第にモノづくりへの自信を深めていた

メリヤス、セルロイドと製造事業への経験を積んできた鉄鋼製品輸入の最も古い商社としてやはり国内での製造事業を育成することが使命だと思っ



そして大正元(一九一二年)年 亜鉛鉄板事業を育成するため大阪桜島にあった融資先の 亜鉛鍍株式会社 (後、日新製鋼、現・日本製鉄) に経営参画する

よし 岩井の資金で工場を拡大しよう

一気に工場は拡大後に大阪鉄板製造に社名変更し 岩井勝次郎は社長に就任した

鈴木商店も
製鋼業に参入
することになる

鈴木商店は
製鋼業を試みる
小林製鋼所に
建設資材・機械の
購入で協力し
融資した

よしっ
国がやるべき
ことを鈴木がやる
鈴木も鉄じやあ

しかし
来賓を招いての
小林製鋼所の
出鋼式は……

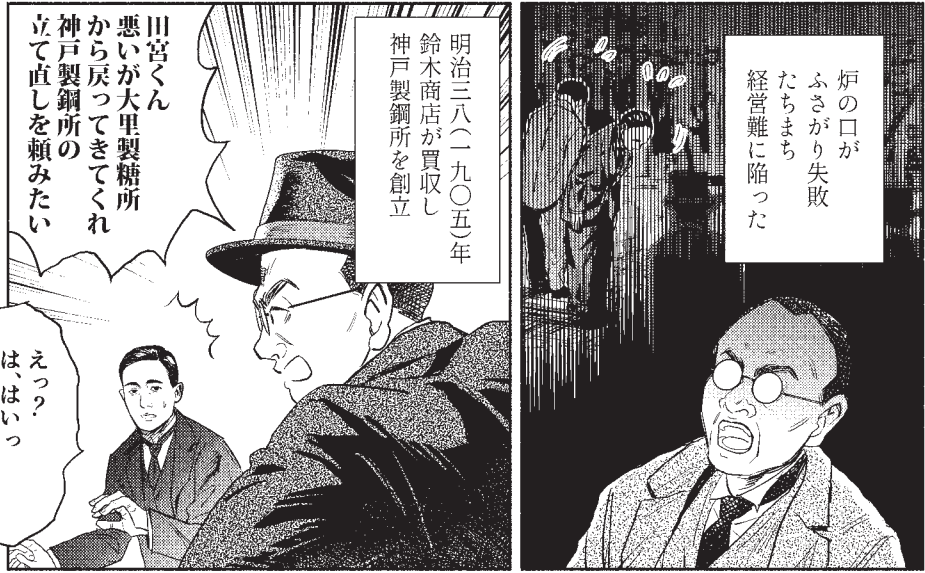


炉の口が
ふさがり失敗
たちまち
経営難に陥った

明治三八(一九〇五)年
鈴木商店が買収し
神戸製鋼所を創立

川宮くん
悪いが大里製糖所
から戻ってきてくれ
神戸製鋼所の
立て直しを頼みたい

えっ？
は、はいっ
わかりました!!



突然
神戸製鋼所の
支配人に就任する
事になった
田宮嘉右衛門は

愛媛県新居浜出身で
明治三七(一九〇四年)
金子直吉に請われて
鈴木商店直営
樟脳工場に入社

その四か月後に
金子に北九州の
大里製糖所への
勤務を命ぜられた
ばかりであった





実は金子さんは
西宮紡績の買収を
狙っていたのだ
しかしある日新聞で
他社に売られたと出て
それで放心状態に
なってしまったらしい

そこに
小林製鋼所の
話があって
製鋼業の至難なことも
多額の資金を必要と
することも一向頓着
なしにスラスラと
引き受けてしまった
らしいのだ

はあ……



しかし
鉄鋼業は国家的な
事業でもあるし
むざむざ
つぶしたくはない

神戸製鋼所の支配人に
任ぜられた当時田宮は
僅か31歳の若さである

引き受けたからには
しっかりやる
諸君もよろしく頼む!!

!!
はいっ!

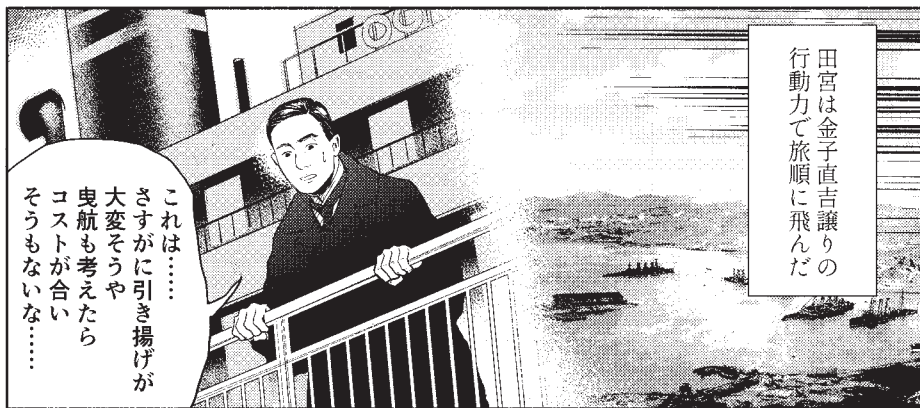
金子は
期待をした若手を
積極的に抜擢した



しかし技術や設備の問題もあり神戸製鋼所は赤字が続いた

うーん……
そうや!

日露戦争の旅順封鎖で沈んだ船をスクラップ原料として使えないか?



田宮は金子直吉譲りの行動力で旅順に飛んだ

これは……さすがに引き揚げが大変そうや
曳航も考えたらコストが合いそうもない……



そんなわけで旅順の沈んだ船はあきませんでした……

田宮くん結果は残念だったがその発想力は素晴らしいめげずに続けるんや

しかし神戸製鋼所が軌道に乗るまでにはまだ一苦勞を要した

田宮さん大変そうじゃのうわしは遊びをやめて田宮さんに決めていくつて決めたんじやがのう

三輪組創業者
三輪徳太郎

田宮はなお
悲観的であつたが
金子直吉は
諦めなかつた

金子さん
やっぱり閉鎖も
視野に
入れては……

いや
西洋諸国でも
当初は困難
だったのが
製鉄じゃ

それが今はどうだ
成功しているだろう
あまり悲観
しちやいかん

同じ神戸の
松方幸次郎さん
を見て
川崎造船所の
ガントリークレーン
はすごい

松方さんここで
作った水雷艇が
日本海海戦でも
大活躍やつた

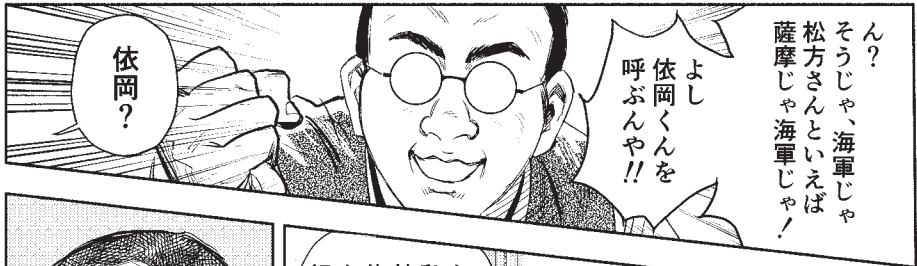
でもわしは
鈴木の人材と情熱が
松方さんところに
劣るとは思わん



ん？
そうじゃ、海軍じゃ
松方さんといえはば
薩摩じゃ海軍じゃ！

よし
依岡くんを
呼ぶんや！！

依岡？



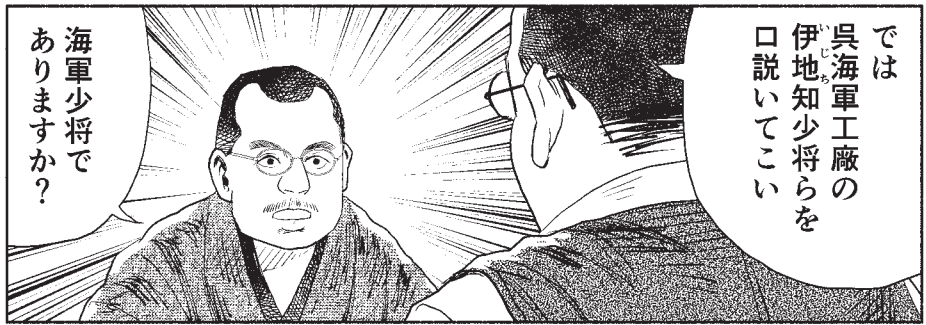
金子直吉が
白羽の矢を立てたのは
同じ土佐出身の
依岡省輔であつた

なんでもやりませ
私の得意技は
特にありませんが
体が大きいから
人並み以上に
飯を食うこと

あとは知事や將軍を
説き伏せることくらい
でしょうか……

おもしろいっ





では
呉海軍工廠の
伊地知少将らを
口説いてこい

海軍少将で
ありますか？



おうとも
松方さんから
紹介してもらって
吉井幸蔵伯爵と
話をつけてある

あの坂本龍馬と
お龍さんの新婚旅行で
霧島に案内した方や
お父上は西郷さんの
幼馴染の吉井友実さんや
ツテはバッチリある

わかりました
必ず口説き
落とし
まいります!!

金子さんの
ところには
妙な人が
集まるのう？
田宮さん

君もな
三輪くん

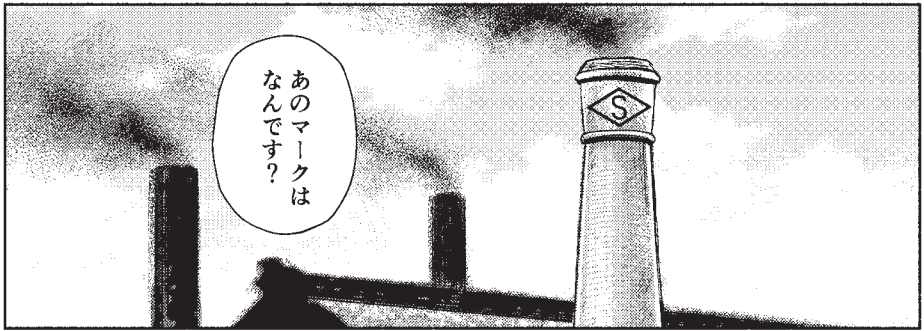
それが鈴木の
良いところだし
強さの秘訣
なのだろう



依岡の
接待作戦は成功し
呉海軍工廠
だけでなく
舞鶴、横須賀、
佐世保海軍工廠
からも受注を受け
神戸製鋼所は
大発展していく
ことになる

金子さん
大里製糖所の売却の
話を聞きまして……
その一部で
でっかい設備投資
させてもらえ
ませんかでしょうか？

田宮くんわかっとる
今は三トンプランマーやろ
一〇〇トンプランマーに
一気に引き上げたいんやろ
設備はどんどん増強や!



あのマークは
なんですか？



神戸高商(現・神戸大学)
を出た高畑誠一くんのことか
耳が早いな
愛媛の内子町出身で
英語を学んで
神戸高商の卒業式でも
英語で挨拶したらしい
同学では永井幸太郎って
やつも優秀だとか

それから本当は出光佐三
(後・出光興産店主)
という学生が欲しくて
高畑くんから誘ったそうだが
合格通知が遅れて
鈴木商店入店を諦めたらしい
惜しいことをしたな……

神戸高商は
優秀な学生が集まる
鈴木商店さんは
ますます人材の宝庫に
なりますやろな



この頃
鈴木商店には
次代を担う
優秀な学生たちが
続々と入社していた



ひし形にS、だろう？
字からきている
鈴木よねさんだな
これは大里製糖所と
同じマークなんだ
大里製糖所の成功を
神戸製鋼所に重ね
たい……

つまり
金子さんは神戸製鋼所に
命をかけているということだ

それは……私らも
生半可ではいけませんな
一層気合を入れないと
なんやら優秀な学生さんも
採用されたということですし